



# あそび場ガイド

## とせん 大阪市内の渡船場



### 今も大切な市民の足…無料で乗れる渡し船

わかさ保育園から真西に歩くこと40分あまり。木津川沿いの工場や倉庫が立ち並ぶ静かな地域に、「落合上渡船」があります。西成区とお隣大正区を無料で結ぶ、乗車時間わずか数分の渡船。現在大阪市内には、市の運営する8か所の渡船場があり、15隻の船が地域の多くの人々に利用されているとのこと。明治期には29あった渡船場でしたが、その後橋梁の架設など道路施設の整備に伴って次第に廃止され、現在に至ります。

お散歩がてら、また自転車の利用も可能なのでサイクリングがてら、子どもさんと一緒に気軽な船旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。



わかさ保育園の園児も利用しました(※昨年度の画像です)



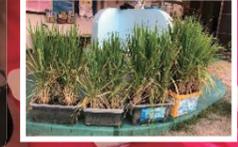
※この記事の作成にあたり、大阪市のウェブサイトより記事と画像を引用させていただいています。



社会福祉法人石井記念愛染園  
隣保事業部 広報誌

今号の表紙/ クラスで栽培したお米をむむ3歳児【大國保育園】

NO. 51 『6歳のこどもたち～就学前、家族の気持ちに～』  
～連載 保育士の知恵袋～  
■特集「これはつかえる！」～続・子育て便利グッズ～



<http://www.aizenen.or.jp/>  
[aizenn.kouhou@gmail.com](mailto:aizenn.kouhou@gmail.com)



あいあいページ51号 2021年3月1日発行  
【発行元】社会福祉法人石井記念愛染園 隣保事業部 広報委員会  
(西野 伊田 川野 山川)  
【お問い合わせ】06-6649-6182【大國保育園】

※前号の表紙は、1歳児→0歳児の誤りでした。訂正致します。

愛染園には、隣保事業以外に、愛染橋病院の「医療事業」、特養あいぜんなどの「介護事業」があります。これからも、それぞれの施設、それぞれの事業の強みを活かしながら、また利用者をはじめ、地域のみなさんとのつながりを大切にしながら、地域に住むすべての人々が、安心して生活していくため、私たちは何ができるのか、考え、実行できる愛染園であり続けたいと思います。



■医療事業 愛染橋病院



■介護事業 特養あいぜん



## 6歳のこどもたち～就学前、家族の気持ちに～

愛染園愛染橋保育園 副主任保育士 瀬川千恵

あいあいページ48号[2020年3月刊行]にて、「就学前の子どもと保護者がどのような気持ちでいるのか」というアンケートをとりました。その結果、「人間関係(42%)」と「学習面(25%)」への不安があるという回答が多くを占めました。

### ●学習面について

保育園では遊びや自然体験などの経験を重ねることで『生きる力』を育み、学ぶ力の基礎となる意欲を育むことを大切にしています。そのため保育士は、子どもたちが自分で考え、決めて、行動することを尊重し、自分に挑戦することで自信を持つことを願っています。何でも早く出来ることよりも生活・遊びの中で興味・関心を育てること、学びの意欲へつながることをめざしたいですね。

### ●人間関係について

人間関係については、親が心配しすぎず子どものちからを信じることだと思います。保育園生活の中で子どもたちは、友だちや保育者との出会いと別れを繰り返し経験してきました。積み重ねてきた毎日の中で子どもたちは友だちになる方法や一緒に遊ぶ言葉かけなど、知っているとします。



### ～お母さんたちへのメッセージ～

今は一年生になる子どもたちの不慣れた気持ち、ワクワクする気持ちに共感することを家庭でも大事に、お願いします。「不慣れだね。ドキドキするよね。」「その気持ちでいいんだよ。その気持ちわかるよ。だって、お母さんもそうだよ。」って聴いて応えてあげてほしいと思います。お母さんからの言葉は魔法の言葉です。子どもたちが不慣れたとき、振り返ると、いつもお母さんの笑顔が傍にある。これが子どもたちの安心につながります。また、実際に一緒にいないときでも、お母さんの存在のイメージにアクセスするだけでも安心につながります。お母さんの不慣れた気持ちは、いつでも保育園へ。卒園してからも、いつでも「ただいま」と帰って来てください。いつも応援していますし待っています。



## 『“あそび”とは』 Vol.2 自分の責任で自由にあそぶ Part1 ～取る責任と負う責任～

対談～プレイワーカー 天野秀昭さん × 大國保育園 西野伸一園長

～あそび(余裕)のない生活、あそび、子どもの世界が奪われる今だからこそ天野さんのメッセージを親や保育に携わる人に届けたい…日本で最初の常設の冒険遊び場、初代職業プレイワーカー天野秀昭さんに聴く～

西野さん プレーパークでは、「自分の責任で自由にあそぶ」という標語がよく使われていますよね。とてもインパクトのある言葉だと思います。この標語の意味を教えてください。

天野さん この言葉が生まれてきた背景まで語ると大変なことになりますが(笑)、毎週喧々囂々の議論を繰り返して、その結果として手にしたプレーパークのモットーです。公園にあるような禁止や制限を書いた看板をなくし、その代わりに、このモットーが掲げられています。

西野さん そう、大阪の公園も「ボール遊び禁止」などの禁止や制限の看板ばかり。数年前に「～ができるよ」という子どもの視点に立った看板(CAN板)を作って立てられる公園を探していました。そんなとき、いつも話題になるのが「責任」という話でした。

天野さん 例えば、何か面白い企画を上司に提案をしたとします。「それは確かに面白いかもしれないけれど、何かあったら、君、責任とれるか？」などと言われたら、どんな気持ちになりますか。応援されてるなあ、とは思えないですね。

ひるまずにここでもう一押し、「ええ、自分がやりたいと思っていることなので私が取ります」と言ったとします。そうしたら、こう言われました。「そうは言っても、君、責任とれる立場にないだろう。君がしたこと責任を取るの、この僕だよ」。こう言われてしまうと、もう動けなくなってしまいますよね。

これからわかることは、相手のやりたいことをやめさせ禁じることは簡単なのです。君は責任が取れないのだと、その人から「責任」を奪ってしまえばいい。これと同じ構図が、大人と子どもとの関係にあると思っています。子どもがしたこと責任を取るの、大人だ、子どもには責任が取れない、だから大人の言うことを聞け、というものです。

西野さん 「何かあったら」って決まり文句ですね。これでは子どもは大人の下、管理のもとにあり、人生の主体や責任の主体にはなれないって言っているような気がします。

天野さん 「責任」には、二つの種類があると思います。ひとつは「取る」責任。もうひとつは「負う」責任。前者の責任は社会的なもので、例えば裁判のように他者が判定するものです。それに対し後者の責任は、自ら感じるものです。前者の責任を子どもに求めることは、選挙権や被選挙権がないなど社会システムづくりに参画していないなどさまざまな理由から無理が生じますが、後者の責任は、実はそれなりにいくつの子どもの中でも感じることができます。

ここからこのトークは更に深くなっていきます…【次号へ続く】



# 『“あそび”とは』

対談～プレイワーカー 天野秀昭さん × 大国保育園 西野伸一園長

Vol.1

～あそび(余裕)のない生活、あそび、子どもの世界が奪われる今だからこそ天野さんのメッセージを親や保育に携わる人に届けたい…日本で最初の常設の冒険遊び場、初代職業プレイワーカー天野秀昭さんに聴く～



天野秀昭さん

西野さん まず、はじめに、簡単なプロフィールを教えてください。

天野さん 日本で最初の常設の冒険遊び場「羽根木プレーパーク」の初代職業プレイワーカー(プレーリーダー)。遊ぶことの価値を広めるためNPO法人「日本冒険遊び場づくり協会」、同「園庭・園外での野育を推進する会」等4つの法人を立ち上げ、その運営に当たっています。

西野さん 愛染園では「あそび」をととても大切に考えています。いま、子どものあそびやあそび場がどんどん奪われているように感じています。天野さんは今のあそびの環境についてどんなふうにお考えですか？

天野さん その子自身が「やりたい」と思うこと、そこから始まる行為を「遊び」と言いますが、じゃあ、それがほかの子も同じようにやりたいことかと言えばそうとは限りません。

西野さん うんうん、そうですね。

天野さん 場合によっては、その子にとっては無性にやってみたいことでも、他の子にとってはどうでもいいことも珍しいことはありません。大人でいえば「やってみたい」と自分から始めることを「趣味」と言いますが、自分の趣味をみんなが面白いわけではないことを考えればわかると思います。

西野さん なるほど、自分の他者の世界が存在するわけですね。

天野さん そうつまり、その子が「やりたい」と感じること、それは「その子自身の世界」なのです。「遊ぶ」ことは、その子自身の世界の創造であり構築の実践で、「私が生きている」という実感は、その中で醸成されていきます。これは大人が教えられるものではありません。本人が遊ぶことを通じて実感していくことです。それなのに、その時間を大人がシステムに取り込んでしまうことで奪ってしまった。このことが生んでいる事態は、相当深刻です。「私が生きている」という実感が持てないことにつながるからです。

ただ、外からはそれがとても見えにくいので、大概の大人は気づかない。「食べる」「眠る」「出す」「遊ぶ」、この4つが、ヒトが人として生きる上での4本柱だと僕は考えていますが、最初から3つ目まではそれをしないと生命体として生きていられないから誰もが理解できます。問題は4つ目の



西野伸一園長

「遊ぶ」です。これをしないと心が死んでしまう。それを理解する人が本当に少ないのが現状です。骨を折ると大騒ぎするくせに、心は平気で折る。骨はくつつくけれど、折られた心は簡単には回復しません。

【次号へ続く】



大国保育園  
ちひろさん  
[0歳児]

「パパ  
大好き」

「プールも  
お風呂も  
大好き」

愛染橋保育園  
やまとさん  
[0歳児]



「ハッピー」

愛染橋保育園  
みこさん  
[5歳児]

たくさんのご投稿ありがとうございました。  
ご投稿いただいたすべての方の写真を、  
今号より掲載させていただきます！

第1弾

## 保護者も参画 Photo コンテスト

# お子さまのキラキラ笑顔



南港東保育園  
いちごさんとみかげさん  
[3歳児] [1歳児]

「海大好き  
2020夏」

「イルカさん  
どこかな？」

愛染橋保育園  
はじめさん  
[4歳児]

「園外をひいて  
いざよど、  
元気になったよ」



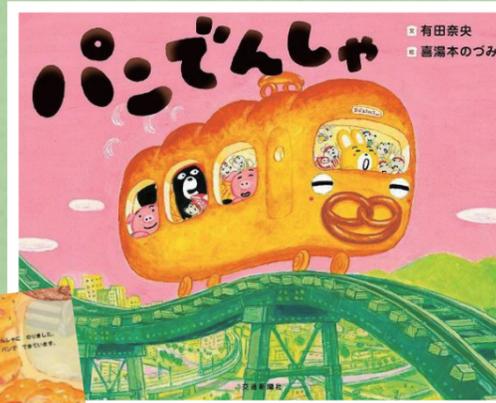
わかさ保育園  
しんりんさん  
[0歳児]



「レッサー  
パンダと  
ハイチーズ」

大国保育園  
いちかさん  
[2歳児]

パンでんしゃ  
[オススメ 3~6歳]  
作/ 有田 奈央  
絵/ 喜湯本 のづみ  
出版社/ 交通新聞社  
本体価格/ ¥1,300+税  
発行日/ 2020年01月21日  
ISBN/ 9784330029191



## 絵本だいすき！！



ホームで電車を待つウサギさん。そこにガタンゴトン…とやってきたのは「パンでんしゃ」！？

不思議なこの電車は、外も中もみーんなパンでできています。ウサギさんは、「うわあ～おいしそう！」と夢中でもぐもぐ。次々と乗り込んでくる動物たちと一緒に旅を続けているといつの間にか車両に異変が…！？

子どもたちは、いろいろな種類のパンがある「パンでんしゃ」に「おいしそう～！」と思わず食べたくなってしまいます。この絵本を読むとなんだかお腹が空いてしまう楽しい絵本ですので、ぜひ読んでみてくださいね！